

# 指導案(テーマ:牛乳と文化) 給食献立から文化・言葉を考える

対象学年 中学校1学年

1. タイトル：醍醐で考えよう日本の食文化
2. 目標：醍醐が牛乳を指す言葉であることがわかり、食材の名前が使われていることに感心をもつ
3. 生活や学習の事前の状況
4. 指導内容

	支援及び留意点	資料
導入	<p>①②…教師の問いかけ、○留意点、・想定される生徒の発言、→教師の発言</p> <p>①先生こんな新聞見つけたんだけど、「醍醐味」ってどんな味？ 甘い？辛い？苦い？酸っぱい？ ○スポーツ新聞を見せ、「醍醐味」という言葉に注目させる。</p> <p>②新聞記事「これぞ野球の醍醐味」の意味は何でしょうか？ 次の2つの中から、そうだと思う方に手を挙げてください。 A. 野球のつらく、くやしい味わい B. 野球の本当のおもしろさや深い味わい</p>	<p>★スポーツ新聞</p> <p>★2択クイズ</p>
展開	<p>③B.が正解です。実はこの「醍醐」はある食材の名前です。ヒントは今日の給食に使われている食材です。 →チーズです。野球はチーズ味なんですね。</p> <p>④なぜチーズが「醍醐」という言葉として使われているかという、飛鳥時代に仏教と一緒に牛乳が伝来した時に、乳製品のおいしさを表すランキングの最上級に「醍醐」という現在のチーズのようなものがありました。この醍醐は、牛乳を煮詰めて作るため、とても貴重な存在で、高貴な人しか食べられない食材でした。そこから最上級のおいしさや最上級の人(天皇)のように、最上のものを表す言葉として、醍醐が使われるようになりました。だから最上級の面白さという意味で「野球の醍醐味」などと言われています。</p>	<p>△必要に応じて、ランキング表を作成、活用</p>
つなげる	<p>⑤このように日本語には食材の名前が使われているものがたくさんあります。今日の給食の食材が使われている言葉もあります。何の食材でしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(大根) 役者</li> <li>・成績が(うなぎ)のぼり</li> </ul> <p>この他にも色々あります。探してみましよう</p>	<p>△必要に応じて、穴あきクイズを作成、活用</p>

## 5. 評価の観点

醍醐が牛乳を指す言葉であることがわかり、食材の名前が使われていることに感心をもつことができたか

指導のための補助教材

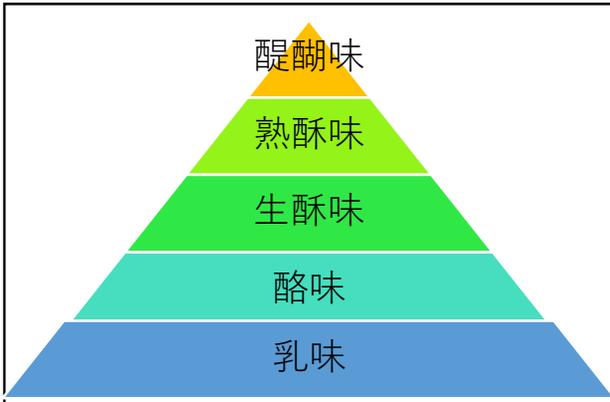
1.★スポーツ新聞(記事)



2.★2択クイズ



3.△味のランキング表(例)

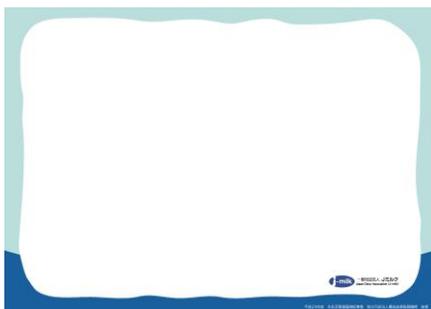


4.△穴あきクイズ(例)

① (                    ) 役者

②成績が (                    ) のぼり

注意 1. 2以外の補助教材は、様式をご活用ください



## 【給食の献立と連携が必要な食材】

チーズ、(大根、鰻)

## ここがGood!

- 導入場面で本指導にかかわる「醍醐味」を取り上げたスポーツ新聞を提示することで、生徒の関心を高めることと指導内容の焦点化がされています。
- 給食の献立を言葉の視点から整理し、プログラム化することはとても大事です。食べ物が由来になった例を探しましょうといっても、そうそう探せるものでもありませんが、子どもが学びやすいスモールステップがこの指導に入っていることで学びが深まり、給食の献立に関心を持ちます。そういった仕掛けはとても大事で、個別の知識を活用する為には見方・考え方が大事です。本指導において「食材をもとにした言葉がある」という見方を手に入れた子どもたちは進んでそうした言葉を見つけるようになります。食育から見方・考え方の獲得ができれば、深い学びにつながっていきます。
- 子どもの活動を選択肢にしたり、クイズにしたりすることで、参加しやすく工夫されています。

監修・評価 武庫川女子大学 専任講師 藤本勇二 先生